

淀川沿いの橋の現地調査 実施報告

CVV では、2016 年度に「浪速の名橋 50 選」の改訂のため 50 橋の現地を訪れ、橋の現況と周辺環境を調べた。2017 年度は、「（仮称）大阪の橋のネット博物館の構築」に向けて、橋の調査を継続して行うことになった。その第 1 回目として、淀川沿いの橋の調査を実施した。なお、本件は、土木学会関西支部の共同研究グループ活動の一環である。

実施日：2017 年 9 月 30 日（土曜日）

参加者：宇野 宏司、川谷 充郎、神吉 和夫、黒山 泰弘、齋木 亮一、先本 勉、塩野谷 洋一、武 伸明、田中 洋、友廣 康二、中垣 亮二、夏秋 義広、野坂 俊雄、平尾 修一、古田 均、堀江 佳平、松村 博、道下 弘子、森 俊彦、祝 賢治（合計 20 名）

集合場所と時間：八軒家浜船着場に午前 9 時 45 分に集合。

行程と調査対象の橋：（枠で囲った名橋 50 選以外の橋が対象）

（八軒家浜船着場）→天満橋→川崎橋→桜宮橋→源八橋→**都島橋**→**飛翔橋**→**手馬橋**→

（毛馬閘門）→**城東貨物線・赤川仮橋**→菅原城北大橋→豊里大橋→**鳥飼大橋**→

鳥飼仁和寺大橋→**淀川新橋**→**枚方大橋**→（枚方船着場）→（昼食）→鍵屋資料館→

枚方大橋→淀川資料館→京阪・枚方市駅（解散、午後 3 時頃）

内容：

八軒家浜を午前 10 時に出航し、枚方までは一本松海運（株）の乗合船を利用した。12 時 30 分頃に下船後は、徒歩で回った。休日で天気にも恵まれ（晴天）、船は定員（45 人）一杯で満席だった。船内では、要所の案内（ガイドは平尾修一氏の弟さん）があり、舟歌が歌われ、往時の三十石船の雰囲気が演出されていた。

参加者には事前に橋の資料を配布したが、一般客と相席で船内では橋の説明をすることはできず、また自由に席を移動して橋を観察することができなかったため、橋の調査条件としては不十分であった。ただ写真撮影については、森さんと田中さんが船の先端と後端に席をとり、多数の写真を撮ることができた（そのごく一部を後頁に掲載）。

船から見た橋や周辺環境（ワンド、両岸の風景など）、毛馬閘門での水位差の調整、大川から淀川に出たときの川幅の拡大に伴う解放感など、船でなければ味わえない経験を行うことができた。下船後は、鍵屋資料館、枚方大橋、淀川資料館を訪れ、資料を収集した。

次に、参加者をお願いをして感想文をお寄せいただいたので、紹介したい。

「淀川の橋」調査に参加して

私は、今、高槻市に住んでいます。高槻市の南に、京都方面から大阪湾に注ぐ「淀川」が、先人たちから現代に至る迄、人々の生活に大きな影響を与えてきたことを、淀川を始点から終点までの 37 k m を数日間に分けて歩いて、碑石等で調べています。この経過の中では「淀川は、三川合流地点が出発点ではないこと」、「沿岸に住む人々が歴史上で何回も氾濫に苦しめられたこと」、「今も『居安必勿忘危』(…大塚切れ洪水記念碑より)」を教訓に、治水のための努力を払っておられること」「右岸・左岸街の発展につれて、連絡をよくするため景観や強度等を考えに入れて、橋が架けられたこと」を実体験出来ました。CVV の皆様、ありがとうございました。

平尾 修一 記

これまで大川側の毛馬閘門までは船で巡視したことはありましたが、淀川を上るのは初めての貴重な経験でした。橋梁は真横から、また川の中から見上げて見る機会が少ないこともあり、例えば、よく車で利用する斜張橋の豊里大橋が 2 本ケーブルであったと改めて気付いた次第です。また、河川敷は広場やグラウンド等として広く利用されていますが、船からは視点が低いこともあり、両岸に樹木等のため多くの所で見えないことにも気付かされました。橋梁の景観等の調査にあたっては、現地で多角的に調査する事が重要であり、意義のある調査でした。

齊木 亮一 記

今回の船上からの橋の視察では、往時の船旅に思いを馳せながら、普段は決して見ることのないアングルから橋の細部を眺めることができるなど、大変貴重な体験をさせて頂きました。日ごろ川や海を相手にしている私にとっては、当たり前のようにそこに架かっていると思っていた橋ですが、架橋後も様々な手入れが、それも見た目にも美しく、丁寧に施されていることに大変感動いたしました。今後もこのような機会を通じて、現場と諸先輩方から多くのことを学んでいきたいと思えます。参加させて頂き、有難うございました。

宇野 宏司 記

橋について一般の人々に説明できるようになれば、もっとお手伝いできるという気持ちで参加しました。どの橋も B 面からみることができ、かつ、毛馬閘門を船で通ることができ、ありがたい機会でした。とくに橋はどれもメンテナンスが行き届いており、まさに「橋屋の面目躍如」。川に架かる大阪の橋は十分安全性が確保されていることがわかりました。ガイドさんたちの博学にも驚きました。彼らにさらに土木のことについて伝えたら、きっと素晴らしい土木の広報マン・ガールになるに違いないと思えます。自分の反省として、今年ちょうど 100 年になる「大正 6 年の大塚切れ」の当該箇所を特定できなかったのが、残念でした。

道下 弘子 記

写真集：



都島橋



飛翔橋



毛馬橋



毛馬閘門



赤川仮橋



淀川新橋



鳥飼大橋



鳥飼仁和寺大橋



枚方大橋



船内の様子



鍵屋資料館



淀川資料館



集合写真（枚方船着き場にて）

以上（祝会員編集速報版 後日、HP 版掲載予定）